和して同ぜず　人間の正しい道

A Right Course：Differences but Harmony

――今日の世界と「中国古典名言録」出版の意義――

中国・学苑出版社社長兼編集長
九三学社中央委員会委員　孟　白

今日の世界は100年、1000年前と比べると科学技術が飛ぶようなスピードで進歩しており、産業の巨大な発展、人類の生活条件や自然界をコントロールする能力などは10倍、100倍に変化している。それに対応して人類の欲望も10倍、100倍に増加している。

当然ながら、欲望が人類の進歩を促進させる。木の摩擦による火の取得から水力発電や原子力発電、太陽エネルギーまで進歩し、河川水の利用から地下水の汲み上げ、さらに海水の淡水化まで進み、また、飢餓から過剰栄養まで進歩してきている。今後も欲望を保持し続けながら絶えず進歩していく。

しかし、過度の欲望、無制限な欲求が地球と地球に住んでいる人類にもたらしたのは資源の枯渇、空気の汚染、水質の劣化、植生の破壊、病気であり、最終的な結果として地球およびその住民である人類は破滅に至る。

もし1000年前に人類が過度の欲望、無制限な欲求による狂気

の略奪や戦争を行っても、壊滅するのはただ一つの村、一つの都会、一つの国家で留まったであろう。しかし、この100年ほどの間に人類の「能力」は高まり、過度の欲望、欲求とそれに伴う狂気の行為を起こせば壊滅するのは全世界となるであろう。

この大変な時期に、世界の有識者たち、小松昭夫・財団法人人間自然科学研究所理事長、そして今日ご来場のゲストを含む皆様方は、この世界的「狂犬病」を治す様々な方法を懸命に考え、探しておられる。人々が考えたり探したりしている過程の中で、この約200年間、世界の頭脳を支配してきた欧米思想体系とその文化理念に幾つかの落とし穴があり、世界の全てを丸呑みする「ブラックホール」（black hole）のようなものが存在していることに気づいた。そこで人々の眼は200年にわたり放置され、忘れられてきた東洋の文明、つまり東洋の文化と思想に向かい始めた。その中で一番注目されているのが東アジア文明である。つまり中国、日本、韓国の文化と思想である。人々は、悠久の歴史を持ち、延々と続き絶えることのない東洋の文明、中国の古い文化の中に、今日の人類が知って備える必要のある大変な知恵、世界を救う方法と道理が含まれていることを発見した。

5年前に小松理事長ご一行が北京に来られ、わが出版社を訪問された。初対面で、お互いに言葉が通じず交流は大変だったが、小松理事長のお考えは理解できた。長い年月をかけて追求されてきた事業に大変感動し、感心した。小松理事長の夢に私は共鳴した。私達は一冊の書物を出版することを検討した。こ

の書物は中国古代における大思想家達の思想の精髄を中、日、韓、英の４カ国語で紹介するものである。中国語を読める人、日本語を読める人、韓国語を読める人、あるいは英文を読める人にも、これらの古くて、深くて、今日に対しても啓発的で役に立つ思想と道理を理解してもらう。

５年間にわたる緊張を要する大変な編纂作業により、この４か国語「中国古典名言録」をついに出版することができた。編纂や出版の過程において多くのエピソードがあり、それを記録したらこれほどの厚みのある本になると思うが、ここでの紹介は省略する。私がここで話したいのは、その編纂や翻訳作業は、中国、日本、韓国、米国などの国の幾人かの学者の知恵と力を合わすことによって成功裏に出版できたことである。この出版の成功は、小松昭夫理事長と私の共同願望を体現している。つまり異なる国の人達が共同で、世界を更に素晴らしくさせる事業を完成させたのである。それで、私は非常に喜んでおり、小松昭夫先生にも大変感謝している。小松理事長の支持を受けたおかげで、私の夢が一つ実現できた。

小松先生は常に博愛の精神を実践されておられ、多くの慈善事業をしておられる。ここで一つ紹介したい。2008年５月12日に四川大地震が発生した際、小松先生から中国の震災被害地域に寄付したいとの連絡を受けた。その時、わが社は、ちょうど一週間以内に「地震災後防病常識」（訳注：震災後の病気を予防するための知識）という本を20万冊編集しようとするところであった。そこで、小松先生の了解を得て、そのうちの２万冊

を人間自然科学研究所の名義で印刷し贈呈した。今日、この場を借りて小松先生にお礼を申し上げる。

「中国古典名言録」の編纂を始めた時、私は学者達と次のような一つの問題を討論した。中国の古代文化と思想は2000〜3000年前に形成されたものであり、その後に続々と多くの補充と変化があった。その形成は単源的なものではなく、多源的なもので、さまざまな諸家の学説がある。各家の学説には大きな相違があるが、互いに栄養を吸収しあい、互いに尊重しあい、共存しあい、共に中華文化を構成しているのである。これはまさに中華文化の本質と特徴である相互容認というものである。その後、仏教、イスラム教と近代西洋の宗教文化が中国に入ってきても、中華文化はこれらを排斥したことがない。それどころか、それらを吸収し、融合しており、中華文化の中核である和諧を体現している。これが私の今日の演題にある「和」（harmony）である。Harmony not equal to sameness。「和諧」は相違（differences）のある事と不一致を許している。しかし、それは多くの「相違」、「不同」を融合させ、統合して構築されるものであり、最終的に「和」の流れと結果が生まれる。この精神は儒家、道家だけでなく医学家の説の中にも「和」の精神が光り輝いている。「排斥せず、唯我独尊せず、共存共栄」は、今日の世界の多くの問題を解決するには重要な啓発的意義がある。しかも、排斥せず、唯我独尊せず、寛容で開放的な思惟方式は人を謙虚にさせ、すべての素晴らしい思想、技術と知識を学び吸収することができる。これは一つの国家、一つ

の民族だけでなく、一個人にとっても、すべて発展高揚するための基礎である。

ここで、一つの例を述べる。100年あまり前、ドイツ、日本、その他の国は「生存空間」の不足を理由にし、外部へ拡張をしなければならないという思想の支配を受けて侵略を起こした。これによって第１次、第２次世界戦争が引き起こされ、世界で数千万人の犠牲者が出た。終戦後、ドイツ、日本は地理的概念上での「生存空間」は一寸も増えていないが、急速に世界的経済大国に発展し、国民の生活が豊かとなった。これは思惟方式を変えたためである。つまり、国土を拡張して「生存空間」を改善する代わりに、科学技術を発展させ、法律制度を健全化し、そして人々の勤労によって「生存空間」を大きく開拓させたのである。今日の文明世界では、どんなことでも議論を通じてコミュニケーションすることにより解決できないことはないのではなかろうか。

この「中国古典名言録」に選ばれた中国古代聖人の名言は、特定の一家一派に限られてはいない。また、中国古代の文化と思想は自然法則を非常に大切にし、自然法則に順応して、「因勢利導」（訳注：物事の成り行きに応じて有利に導く）、「因地制宜」（訳注：その地の事情に適した措置を取る）を重んじている。このような考えの最高境地はいわゆる「天人合一」（訳注：天と人の一体化）である。これは西洋の自然法則を無理やりねじり曲げる思惟とは完全に異なっており、今日の世界に対して、重要な啓発的意義を持っている。

中国の歴史を振りかえる時、私は常に心が痛む。秦漢時代（約2000年前）からの多くの時期において、統治者は古代の知恵を忘れ、その道に反した行為を行った。特に近代以降のある時期において、西洋の混乱した思想にコントロールされ、何度も愚かなこと、気が狂ったと思われるほどの行為があったことは、完全に中国文化の本源（origin）に背離していた。したがって、今日の中国人も中華文化をしっかり学び悟らなければならない、と私は思っている。

なお、私はこの機会を借りて、一つの余談をさせてもらいたい。

10年前に私が初めて日本に来た時のことである。中国の地理学者として日本の地理学者と学術研究討論を行うためだった。大変残念に思ったのは、双方のすべてのディスカッションも、会話も皆英語を使って行わなければならないことであった。去年10月に私が韓国へ一つの学術研究討論に参加しに行ったが、同じように双方とも英語で討論しなければならなかった。類似する事はベトナム、モンゴルなど、アジアの同胞と交流する時にも何度も起きた。これに私は刺激を受けた。道のり 3 時間を超えない近隣の国民が互いに相手の言語が分からず、遠く離れた地球の向こう側の言語で交流しなければならない。まず私はここで皆様に陳謝しなければならない。日本語と韓国語はマスターしていないことを、ご出席の皆様にお許しいただきたい。しかし、この事実から私に一つの考えが浮かんできた。アジア各国の国民のために、特に青少年の児童のために、「亜洲語言

文字故事」（訳注：「アジア言語文字の物語」）というシリーズの本を編纂して出版したらどうか？　言語と文字は文化の担い手で、私達アジアの読者に言語と文字の物語の由来を見せて、お互いがいっそう熟知して理解しあったらどうか？　その上で、簡単な言葉を分かり合うことができたらどうか？　つまり、私のようにsayonaraという一言しか話せない人を除いて、もっと簡単に、言葉に詰まりながらでも話し合いができたらどうか？

私は一つの言語文字を１冊の本に編集しようと思う。この言語文字の形成、変化の過程における意義や、面白い事柄を編纂したいと思う。

その第１歩として、まず中国の子供向けの本を出版する。たとえば、中国語が分かる外国の作家に中国語で外国の文字の話を書いていただく。例えば、中国語の分かる日本の作家に日本語を紹介する本を書いていただく。韓国の学者に韓国語を紹介する本を書いていただく……。第２歩として、さらにこれらの本を翻訳し、または他の外国語に翻訳し、あるいはその他の外国語に編集し直す。たとえば日本語を紹介する本を韓国語に訳す。第３歩として、さらに英語、フランス語、スペイン語に訳す。

私は、何人かの韓国、日本の学者にこの計画を話した時、彼らが熱烈な反応を示されたことに大変興奮させられていた。今年、わが社はこの計画を始める予定である。私は遠くない将来に出版できることを望んでいる。これも私の一つの望みである。つまり北東アジアの中華民族、日本民族、朝鮮民族の人民が更

に緊密に連絡しあい、共同発展、共同繁栄をすべきである。

最後に言いたいのは、文化や知恵は国境の制限を受けないものであるということです。水が様々の所に流れ、灌漑や運航に使われ、また集まって湖になり、地下水になって人々に飲用水を提供できるというように、文化や知恵も世界各国、各民族の人民の共有財産である。これはまさに小松昭夫先生と私、そして、張可喜先生を含め「中国古典名言録」の編纂に係わった全ての者の共通した考えである。したがって幾千幾万の異なった皮膚の色の読者に「中国古典名言録」を読んでいただき、読まれた後、その中から少しでも悟ること、少しでも啓発を受けることができることを心から願っている。

（翻訳　財団法人人間自然科学研究所理事　魏亜玲）

このスピーチは2009年２月22日「竹島の日」に松江市で開催した、「混迷の時代、出雲から陽が昇る」（主催：財団法人人間自然科学研究所）での講演「世界の現状と、中国古典名言録の意義」で発表された。

次頁を表示